



グリーンアクセスプロジェクト Phase Ⅲ
科研基盤(A)「自然の権利の理論と制度
ー自然と人間の権利の体系化をめざして」
2020～2024年度

研究者プロフィール



研究組織（国内）

理論班

法学

高村ゆかり(国際法・環境法)
松本和彦(憲法・環境法)

井上真(環境社会学)

藤井紘司(環境民俗学)

渡辺理和(環境倫理学)

協力機関

オーフスネット
あおぞら財団

制度班

法学

大久保規子(行政法・環境法)
大塚直(民法・環境法)
二見絵里子(民法・環境法)

原圭史郎(サステナビリティ学)

経済学

山下英俊(自然資源経済学)
伊達浩憲(環境経済政策学)

寺内大左(林学・地域研究)

研究総括：大久保規子
事務局：大阪大学法学研究科
助教（URA）：山田綾子
特任研究員（週8時間）：1名予定
RA 1名+アルバイト（HP管理等）



(研究代表者) 大久保 規子

- * 所属：大阪大学大学院法学研究科教授
- * 役割：企画・コーディネート・総括
- * 従来の研究テーマ：環境分野の参加原則
 - ・ オース条約の展開と国内法への影響
 - ↳ 情報アクセス権，参加権，司法アクセス権の保障
 - ↳ 手続的環境権
 - ・ 参加原則に関する欧州・アジア・南米の国際比較
 - ・ 日本に適した形でどのように参加原則を強化するか
とくに参加・環境公益訴訟の仕組み
- * 今回の関心
 - ・ 手続的権利から実体的権利(環境権，自然の権利等)への視点の拡大



(研究分担者)

井上 真

- * 所属：早稲田大学人間科学学術院教授
- * 役割：コモンズ論の観点から，コミュニティの権利に焦点を当てて自然の権利との関係について検討
- * 従来の研究テーマ：地域の環境や資源の利用・管理制度の実態とあり方について，フィールドワークに基づいて検討。その過程でローカルレベルでのコモンズ論から，より広いスケールでの協治論（collaborative governance）へと展開した。
- * 今回の関心
次の3つのテーマについて，コミュニティの権利と自然の権利との相違点等を検討する。(1) 所有権の相対化，(2) 権利主体としての正当性・正統性の源泉，(3) コミュニティ主義思想が国家制度に取り込まれていった過程。



(研究分担者)

大塚 直

* 所属：早稲田大学法学学術院教授

* 役割：環境訴訟の観点から，差止訴訟，生態系損害回復訴訟等，自然の権利と関係する訴訟上の論点を整理・検討

* 従来の研究テーマ：差止訴訟，生態学的損害回復訴訟

* 今回の関心

- 1) フランスにおける生態学的損害回復訴訟の検討
 - 2) EU環境損害責任指令とフランス民法の生態学的損害賠償責任の関係についての検討（フランス民法1249条）
 - 3) 環境損害について民事責任制度を使う場合の問題点とその解決方法
 - 4) アメリカの市民訴訟の検討
 - 5) 団体訴訟において，行政の執行を監視しその欠缺を補完することを差止訴訟で行うことの意味
 - 6) 自然の権利と自然享有権の関係についての検討
 - 7) （自然の権利を代わって主張する）団体の訴訟を立法化するための戦略と制度案の検討
- ・ 差止の要件、適格環境保護団体の選定、公私複合利益訴訟との関係



(研究分担者) 高村 ゆかり

- * 所属：東京大学未来ビジョン研究センター教授
- * 役割：国際法の観点から環境権の検討。関連する訴訟におけるコミュニティの権利および自然の権利の相互関係に関する議論を整理・分析
- * 従来の研究テーマ：国際環境条約、国際環境レジームに関する法的問題，気候変動とエネルギーに関する法政策など
- * 今回の関心：
 - 1) 国際法における環境権の理論化
 - ・ 手続的権利（リオ原則10，オーフス条約，エスカズ協定など），実体的権利
 - ・ 権利主体。コミュニティの権利＝先住人民の権利？
 - 2) 国際的な争訟事例、各国の裁判所の訴訟における国際法上の環境権、コミュニティの権利、自然の権利
 - 3) 気候変動訴訟における国際法上の環境権，コミュニティの権利，自然の権利



(研究分担者) 原 圭史郎

- * 所属：大阪大学工学研究科教授
- * 役割：将来世代の利益を踏まえた意思決定や政策を実現するための社会の仕組みについてフューチャーデザインの考え方を踏まえて分析・検討
- * 従来の研究テーマ：フューチャー・デザイン, サステイナビリティ学
- * 今回の関心：
持続可能な社会と自然を将来世代に引き継ぐための「社会の仕組み」をどのようにデザインしていくのか，という点について検討していきたいと思います。



(研究分担者) 松本 和彦

- * 所属：大阪大学高等司法研究科教授
- * 役割：国内外の環境権論について憲法学の観点から整理・分析
- * 従来の研究テーマ：環境リスク・マネジメントの研究，実体的・手続的環境権の成立可能性，及び環境保全と民主主義のあり方
- * 今回の関心
 - ・ 自然の権利という視点からの権利論の再検討
 - ・ 自然の権利と環境権の関係
 - ・ 民主主義社会における専門知のあり方



(研究分担者) 山下 英俊

- * 所属：一橋大学大学院経済学研究科准教授
- * 役割：生物多様性・生態系サービスと人間の福利の関係を自然資源経済学の観点から可視化・分析
- * 従来の研究テーマ：
 - 制度派環境経済学の視点から生態系サービス支払いの概念を批判的に検討
 - 環境評価の理論的限界を確認
 - 市場以外のガバナンス制度の重要性を指摘
 - 環境政策の費用負担論「価値の制度化」を提案
- * 今回の関心
 - 自然の権利を実体的に保障するための制度のあり方（特に費用負担）



(研究協力者) 伊達 浩憲

- * 所属：龍谷大学経済学部教授
- * 役割：潜在能力アプローチ等に基づいて生物多様性・生態系サービスと人間の福利の関係を可視化
- * 従来の研究テーマ：A.センの潜在能力アプローチに基づく「生態系サービスの享受」プロセスの理論的・実証的考察
- * 今回の関心: さしあたり, (1)IPBESにおける「人類学的転回?」と呼びうるNature's Contributions to People(NCP)概念の提唱と, その理論的背景を探り, (2)主観的な「効用」や「支払意思額」に基づかずにMultispecies Worldsを取り扱うことのできる経済学的アプローチを探し求めている。



(研究協力者) 寺内 大左

- * 所属：東洋大学
- * 役割：自然保護とコミュニティの権利に関する具体的事例をもとに，自然の権利論の文化的・社会的背景，既存の合意形成の仕組みの課題等を整理・検討
- * 従来の研究テーマ：インドネシアで，1) 開発・森林保全政策に対する地域住民の対応を明らかにし（地域研究），2) 地域住民の対応から住民の福祉に貢献する開発・森林保全政策の在り方を検討する研究（農村開発研究・森林保全研究）
- * 今回の関心：ボルネオ中央部の参加型国立公園管理を事例に，1) 保護・利用をめぐる政府（中央・地方）・住民・NGOの権利／正当性主張の競合・協奏の歴史と現状，2) 住民の資源利用と資源利用に関するルール現状，3) 村の慣習的な合意形成の仕組みと課題，4) 地域特性を踏まえた参加型合意形成（参加型国立公園管理）の仕組みの構築，を検討する。



(研究協力者) 藤井 紘司

＊所属：千葉商科大学

＊役割：自然の権利論の文化的・社会的背景について環境民俗学の観点から検討

＊従来の研究テーマ：隆起サンゴ礁のシマの環境史（コミュニティ分析）

＊今回の関心：生活世界の人称性と自然の権利

- （1）民俗学的自然観の特徴を物語り論の立場から検討する。
- （2）環境破壊の被害を受けたフィールドにおいて誕生した人称性を帯びた自然の物語りを収集する。
- （3）人間はいかなる契機に自然に対し人称性をみてとるのか、また、それらの人称性は自然の権利に結びついていくのか検討する。



(研究協力者) 二見 絵里子

- * 所属：朝日大学法学部講師
- * 役割：環境訴訟の観点から，生態学的損害（生物多様性損害）の回復訴訟等，自然の権利と関係する訴訟上の論点を整理・検討
- * 従来の研究テーマ：環境損害に対する責任，生物多様性保全と法、公害紛争処理制度
- * 今回の関心
 - ・ EU環境責任指令と民法の生態学的損害賠償責任の関係
 - ・ 環境損害について民事責任制度を使う場合の問題点とその解決方法



(研究協力者) 渡辺 理和

- * 所属：甲南大学文学部非常勤講師
- * 役割：自然の権利論の文化的・社会的背景について環境倫理学の観点から検討
- * 従来の研究テーマ：環境倫理（とくに、環境プラグマティズム）に理論づけられた環境教育研究，環境教育の理論的枠組み
- * 今回の関心
 - ・ 権利主体となる自然（動物，種，生態系）の前提や条件の妥当性，その理論的・実践的根拠
 - ・ 「自然の権利」思想と環境正義論との関連づけ